

明日 への 話題

人民元国際化



東京大学
教授

いとう たかとし
伊藤 隆敏

中国政府が人民元の「国際化」にむけた政策を推進している。2009年以降、中国は人民元建ての貿易や決済を認めて、これを奨励するようになってきている。中国国内で国際機関や外国金融機関による人民元建ての債券の発行を拡大している。さらに、香港における人民元（預金）の取り扱いを認めるようになり、香港が人民元のオフショア・センターとなっている。また中国人民銀行は、多くの新興国と「スワップ」契約を結んだ。

通貨が「国際化」する、とは、その通貨が貿易取引の通貨単位（建値）となる、その決済で使われる通貨になる、また、その通貨建ての金融商品がその国以外の個人や企業により資産形成手段として保有、取引されるようになる、ことなどを指している。さらに、国際金融の世界では、その通貨が中央銀行の外貨準備として保有される、他通貨がその通貨にペッグ（固定相場）するとき、その通貨が国際準備通貨と呼ばれる。

現在、国際化している、あるいは国際準備通貨として通用する通貨の代表例は、米ドル、ユーロ、円、英ポンド、スイス・フランである。

人民元国際化の推進は、2008年の国際金融危機の発生を機に、ドル中心の国際通貨体制に疑問がもたれたことがきっかけであると思われる。リーマン・ブラザーズの破綻をきっかけに、欧米の金融市場を中心として、世界中の金融資本市場でドルの流動性がひっ迫した。アメリカの連邦準備制度から、世界中の中央銀行にスワップを通じて、ドルが大量に供給された。これにより、国際準備通貨としては、ユーロがドルにはるかに及ばない、ということがわかった。一方、中国は、ここで、ドル一極体制に依存することの危険を認識、新興市場国を中心に、人民元取引の拡大を計画したものである。中国企業にとっては、輸出入を人民元建てにすれば、為替リスクを回避できる（取引相手に押し付ける）。これは良いことではあるが、取引相手はその契約を飲まなければ実現しない。またアメリカの連邦準備制度のように、多くの新興市場国の中央銀行とスワップ契約を結んできた。しかし、今はまだ国際通貨ではない人民元を受け取っても相手国の中央銀行が通貨危機回避のための流動性を確保できるわけではない。

通貨を国際化するためには、国内金融市場の自由化や、通貨や金融商品の出入りを自由にする資本規制の撤廃などが王道である。中国が、そこまで踏み込み、通貨が自由に国の内外で取引されるようにするかどうか国際化成功のカギである。